

## 富士山：剣ヶ峰

- ◆日程 2022年10月9日(日)
- ◆メンバー L：OT、TY、KS、GT
- ◆天候 晴れ後曇り

10月の連休にはジャンダルムへの縦走を計画し、メンバー全員が岩トレなどで準備を進めていた。しかし、天気予報は風雪による悪化が確実と告げている。やむなく皆で転進先を考え、選んだのが今回の富士山だ。個人的には実に29年ぶり。前日の降雪の影響が少ない南面の富士宮口からのアプローチとした。剣ヶ峰にも一番近い。早朝からスタート出来るように、前日入りして麓のPICA表富士キャンプ場でテント泊とした。どうせなら焚火にしよう、静岡おでんを中心として色々買い込んだ。木下さんが焚火台やナタ、火起こしセットなどこだわりの焚火アイテムを持って来てくれた。薪を細かく割っていく様子など実に手際よく、焚火同好会の次期会長として推薦できる域だ。キャンプ場は広々しており、快適そのもの。満腹になったところで20時就寝、翌3時起床。

未明にキャンプ場を後にし、登山口の駐車場へ。既にかかなりの台数が入っている。閉山後一ヶ月経ってもさすがの人気だ。計画よりも一時間早い5時、夜景を見下ろしながらスタート、程なくご来光となった。その後は、一合ごとに建つ山小屋脇で休憩をしながら進む。同じ頃に出発した修験の一行はひたすら法螺貝を吹きながら歩いている。軽快な音色ではないが、使う体力は相当なはずだ。天気良く、登るにつれ江ノ島が浮かぶ相模湾から伊豆半島、駿河湾、三保の松原までくっきり見える。周りの山々はただただ下の方に見える。九合目からは気象観測所が見える。眺望が期待できそう！と、九合五勺のあたりから急に雲が。後ろを歩く木下さんは眠そうにしている。自身も風呂上がりの気分になってきた。脳への酸素が不足しているのだ。

山頂はガスの中で時々火口がチラ見できる程度。お鉢巡りは断念し、代わりに宝永山に寄ることにした。宝永山へは御殿場ルートを経由する。富士宮口よりもさらに空いており実に快適。宝永山への尾根は強風だ。近づくにつれ周囲のガスは晴れ、見事な眺望となった。宝永火口も大迫力で見える。見上げると七合目位まで荒々しい斜面が姿を現している。最後にご褒美を貰った気分だ。下山直後に雨。持ち時間を使い切る充実した山行だった。(記：OT)

CT：富士宮口新五合 5:10 - 八合 8:00 - 剣ヶ峰 10:05/10:30 - 銀明水 10:45-御殿場ルート - 宝永山 12:55 - 富士宮口新五合 13:50

